

八鹿病院ニュース

公立八鹿病院基本理念

『私たちは、地域中核病院として、医の倫理を基本に、質の高い医療と優れたサービスをもって、住民の健康を守り、地域の発展に尽くします。』

平成18年7月 発行／八鹿病院広報委員会 <http://www.hosp.yoka.hyogo.jp/>

医師不足について

院長 岩井 宣健

最近、日本の経済はデフレを脱し、好景気に転じたといわれていますが、今後の長期的な視点では、経済発展を支える労働人口の減少による国力の衰退が懸念されております。この問題への対策は郡少子化対策であると言っても過言ではありません。

しかるに、今、日本では「医師不足」が大きな社会問題となっており、特に産科医と小児科医の不足は深刻であり、年々状況は悪化しているため、地域の病院では安心して子どもを産めなくなり、現実には少子化対策に逆行するような事態となっています。

先日、NHKが但馬のある病院について、医師不足のため、病棟の縮小や診療科の閉鎖となり、地域医療に重大な影響が出ている実態を大きく取り上げていました。

この全国的な医師不足の問題は、なぜ最近になって急に表面化したのでしょうか。原因は多々ありますが、最大の原因は平成16年から始まった医師の卒後臨床研修制度です。これは、医師の幅広い臨床能力を身につけることを目的に、大学卒業後2年間は内科、外科、麻酔科、小児科など少なくとも7つの診療科を、指定された研修病院で研修することを義務づける制度であり、研修医は研修病院を自由に選択できますので、研修医が大学病院や地方の病院を敬遠して、都市部の有名病院に集中してしまいました。その結果、今まで一般病院に医師を派遣していた大学が医師不足となり、派遣能力が極度に低下したのです。

私たちの八鹿病院も例外ではなく、医師の減少により、小児科、神経内科、耳鼻咽喉科、皮膚科が1人医師体制となり、地域の皆様に大変ご迷惑をおかけしております。この事態に対しましては、早急な医師補充への努力は勿論のこと、他の病院や診療所との連携を強化し、地域医療の後退を防ぐよう努めてゆく所存ですので、何卒ご理解賜りたく存じます。

「笑いは健康の元」 (八鹿病院寄席に参加して)

中央放射線科 上田 政己

「笑う門には福来る」と昔から言われています。

また、米国では難病の男性が喜劇映画やユーモア本に接して徹底的に笑うことにより数ヶ月で治癒し、このことから笑いと病気について研究が始まったそうです。

徳島大学第1内科の坂東 浩先生は「笑いの効用については、医学的にも研究が進んでいる。天然の鎮痛効果をもつエンドルフィン分泌やリンパ球の4/8比にみられる免疫能の上昇がみられる。医学生を対象とした実験で、30分間叱ると免疫能が低下するが30分褒めると免疫能が上昇するというデータもある。時には癌細胞が縮小する場合もあるようだ。笑いは、心を暖かくし、人間関係を円滑にする。」と述べておられます。

当八鹿病院でも、入院患者様を対象として「潤いの少ない患者様の入院生活に少しでも笑いを」との趣旨で高校の先生を中心としたボランティアの方をお願いし、昨年9月より「八鹿病院寄席」を開催しています。

内容は落語が中心ですが、5月に行われた「八鹿病院寄席」では小学生の坊やの落語に始まり、なんでも楽器にする名人の出演等2時間30分にわたり、患者様とボランティアの方が一体となり時間の経過を感じさせないひと時を過ごすことができました。

ボランティアの方、参加していただいた患者様ありがとうございました。

今後も2ヶ月に1回の開催ではありますが、継続して寄席を続けますので、ぜひまだ参加されていない方はご参加ください。

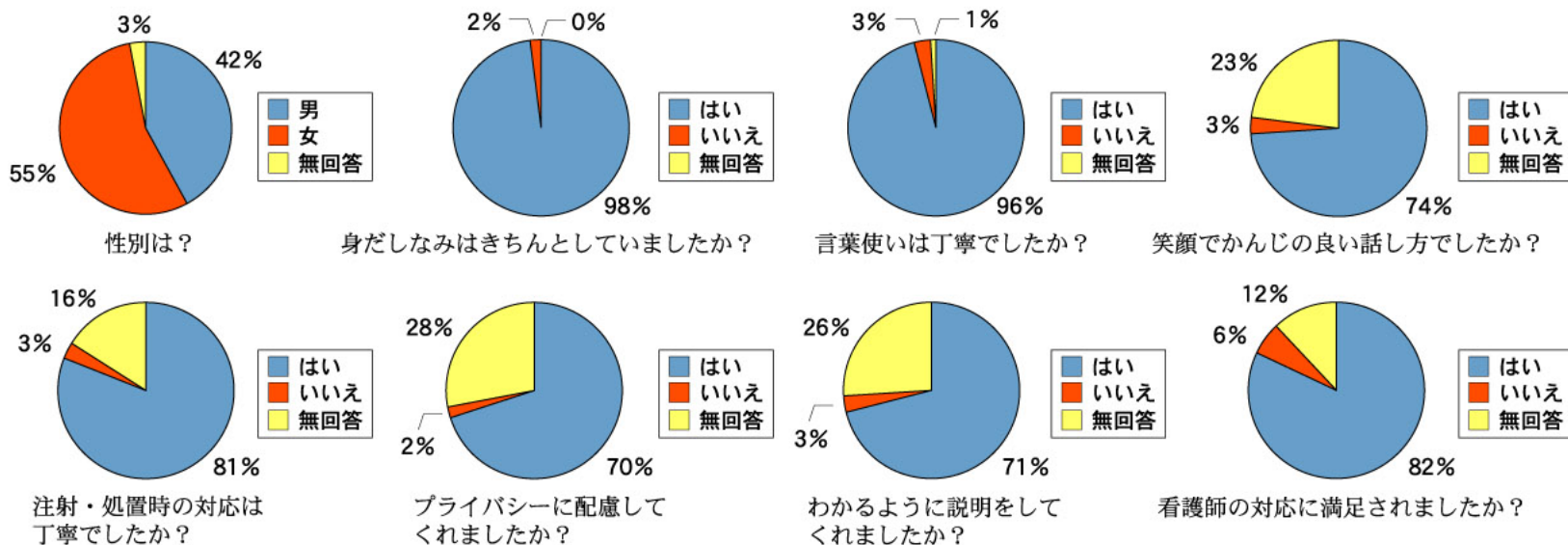
(開催日時等は病院管理課にお問い合わせください。)



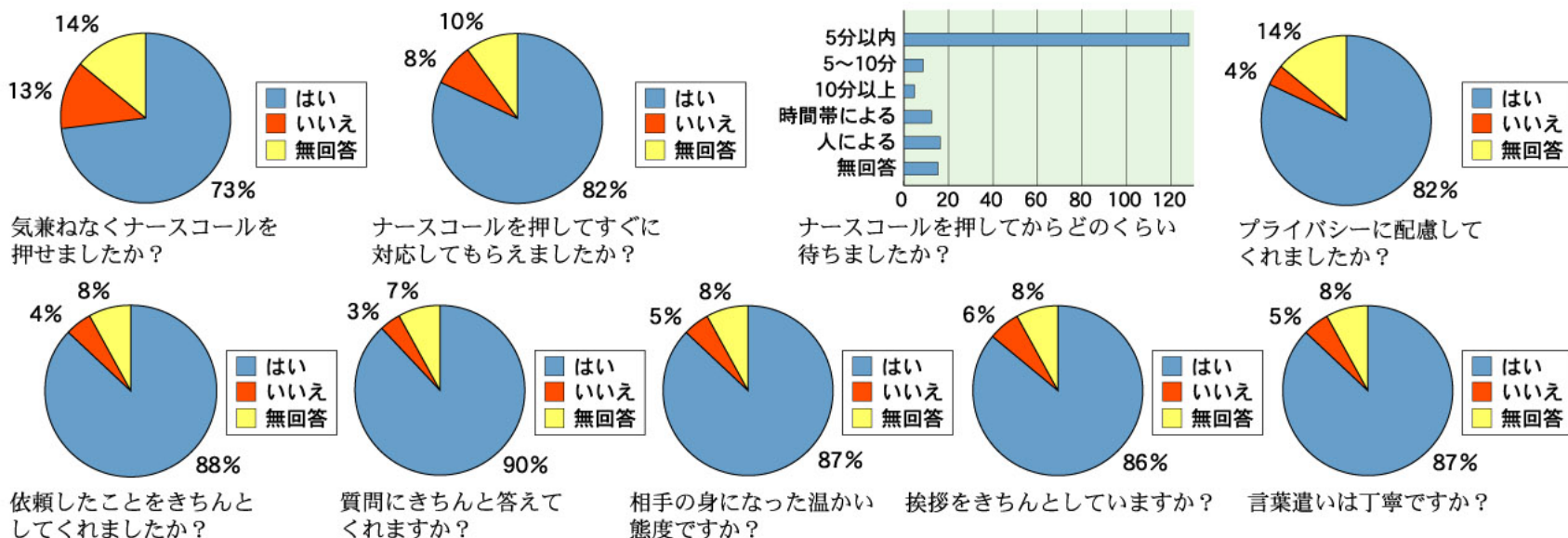
患者満足度調査

去る5月「看護週間」に外来患者様、入院患者様を対象に日頃の「看護師の対応」についてアンケートを実施しました。ご協力いただきありがとうございました。その結果をお知らせします。 看護部長 米田 節子

〈外来患者さまからの意見〉



〈入院患者さまからの意見〉



外来、入院共に80%から90%がはい（よい）であり、少数ながら「無回答」や「いいえ」の回答でした。「いいえ」の回答の重さを認識し、大切な反省事項として努力を重ねていかなければならないと思っています。

自由記載欄には励ましやお褒めの言葉を沢山書いていただき、何よりもの励みになっております。しかし、「笑顔がない」「丁寧にゆっくり話して欲しい」「待ち時間の間に声かけをして欲しい」「忙しそうにしているので頼み辛い」「待たされる」「連絡が悪い」などの意見もありました。ご意見やご要望については、一人ひとりが目配り、気配り、声かけを忘れないようにする事を話し合いました。

私達は、ご来院の皆様方が、安心して安全に診療を受けられ、温かみのある看護を実践し、順調な経過となる事を願っています。その為に、アンケート結果を一層真摯に受け止め、一人でも多くの方に満足して頂けるよう頑張りたいと考えております。今後ともどうぞ忌憚のない声をお聞かせ下さいますようお願い致します。ありがとうございました。

看護部一同

患者様の権利に関する宣言

公立八鹿病院職員一同は、医療の中心は皆様であり、医療が皆様との信頼関係に成り立つことを認識して、「患者の権利に関するリスボン宣言」に従って、皆様に次のような権利と責任があることを確認します。

1. 良質な医療を受ける権利……差別されることなく、良質な医療を受ける権利があります。
2. 選択の自由の権利……医療機関や医師を自由に選択し、また、変更する権利があります。
3. 自己決定の権利……十分な説明のもとに、自分自身の治療を決定する権利があります。
4. 情報を得る権利……医療上の全ての自己情報を知る権利があります。
5. プライバシーなどの機密保持を得る権利……治療で医療従事者が知り得たすべての個人のプライバシーの機密保持を得る権利があります。
6. 人間の尊厳を得る権利……尊厳を保ち安楽に終末期を迎えるための、あらゆる可能な助力を受ける権利があります。
7. 療養や健康についての教育を受ける権利……皆様には健康についての教育や、疾病の予防や早期発見についての教育を受ける権利があります。また、出来るだけ健康的な生活習慣を身につける責任があります。